

青春の博多ラーメン

田中晴次

東京都・50歳・会社員

毎年、青春18きっぷが発売される春夏冬の3回、延々と20時間以上も各駅列車に揺られて、あなたの住む博多まで旅するのが楽しみでした。

友人の一人も、「1日2300円で横浜から博多まで行けるなんてチョー格安料金だけど、俺だったら時間を節約してやっぱり新幹線で行くよ」と、呆れかえっていたけど、その不便で非日常的な点に、僕は旅のロマンときっぷのもつ、「青春」の意義を感じていました。

何度か途中下車し、何度か列車を乗り換えても一直線に伸びるレール。一駅ごとにあなたとの距離が縮まっていくゲーム感覚のときめきは、恋する青年そのもの。そりゃ岡山以西になると、長い行程に少し倦怠感も感じてくるけど、苦痛より興奮が上回っていたよ。

そうして、夕刻すぎから夜の時間帯にかけて博多駅に到着する。再会を喜び合い、しばらく駅構内のお店で歓談してから、街へくり出して名物の博多ラーメンと一緒に

食べる。

手ぐらい握ったかもね。でも、それ以上は何もなかった。夜遅くまでお酒を飲み、語らったあとは、いつもカプセルホテルへ投宿していた。1泊したら再び帰路をたどるのだから、博多ラーメンを食べるのを目的に、東京と福岡を各駅列車で往復していたんだね。

昨年夏に初めて、福岡ドームの近くにあるあなたの住まいを訪ねたっけ。あなたは夫と別れたあと、姪子と一緒に住んでいた。そのとき、「博多へきて一緒に暮らしたらよかに……。住みよい街やから。姪子はそううち部屋を出るから」と、プロポーズのような一撃。

その言葉を確かめたくて、今年1月に博多へ行っただよ！　なのにあなたは独り暮らしの警戒心が先行したのか、愛を語れる雰囲気じゃなかった。どうして？　おな

い年に近い音楽仲間だし、バツイチでもかまわなかったのに。
僕にも遅い春が巡ってきました。彼女と二人、東京のお店で博多ラーメンを食べていると、あなたのことが胸をよぎります。